

## 1 山梨県内公共図書館の概況（平成31・令和元年度）

市町村立図書館の建て替えに関する動きとして、市川三郷町では、図書館、生涯学習館、体育館の3つの機能を備えた複合施設として、「市川三郷町生涯学習センター（通称ifセンター）」が1月25日に開館した。図書・雑誌等約7万冊を所蔵、自動貸出機及びセキュリティゲートが新たに導入され、おはなし会や読み聞かせなどに利用される「りんどうちゃんのへや」が設置された。

南部町では、南部町立富沢図書館の老朽化に伴い、旧富河中学校校舎を改修し移転することが1月に決定した。図書館、放課後児童保育、教育支援センター等の複合施設としての改修を予定している。

甲府市では、3月に甲府市立図書館基本計画を策定した。

読書通帳導入の動きとして、富士吉田市が10月、都留市が2月にサービスを開始し、県内では4自治体が読書通帳のサービスを実施していることとなった。

富士吉田市では、図書館を知ってもらおうきっかけにしたいと、男性を対象にしたヨガ教室「おじヨガ」など、さまざまなイベント開催の取り組みを始めた。

県立図書館の動きとしては、7月に中島京子氏の講演会と金田一館長とのトークショーを行った。9月には、当館司書のブックトークとゲストの選んだ本の紹介で読書を楽しむ「かいぶらり本の玉手箱」が始まり、初回と12月の第2回は県立文化施設の学芸員をゲストに迎えて開催した。11月には、「第6回贈りたい本大賞」として、応募総数6,018点から大賞5点を決定し、表彰式を行った。表彰式後、なかにし礼氏の講演会と金田一館長とのトークショーを開催した。2月には、やまなし読書活動促進事業実行委員会との共催で、羽田圭介氏の講演会と金田一館長とのトークショーを行った。

その他の動きとして、5月には、北杜市白州町に私設図書館「懐古の蔵 橋場」がオープンした。自宅の蔵を改装した図書館で、子どもが集い、大人も気軽に立ち寄れる場になることを願って開設された。1階には大人向けの文芸書など約1,000冊、2階には子ども向けの児童書や絵本など約2,000冊を揃えている。また、NPO法人「地域資料デジタル化研究会」が、旧高根清里小の校舎を、学者や起業家らの蔵書を集めた民間図書館「八ヶ岳 commons」として改装する計画を進めている。

2月に国内の各地で新型コロナウイルスの感染が確認されるようになり、県内図書館でも2月下旬からイベントや会議の開催を見合わせる動きが出始めた。県立図書館では2月28日から感染症対策として臨時休館（閲覧エリア閉鎖）措置をとり、臨時窓口を設置した。3月に入ると複数の自治体で休館や臨時窓口の設置、予約資料受け渡しのみ対応といったサービスの制限が行われた。